

キャッシュレスの時代

現金を持ち歩かなくても買い物ができ、バスや電車に乗れるようになってきている。Cnetの第52回技術交流会では「キャッシュレス時代の対応」と題して会員の衣嶋新一さんから、

1. キャッシュレスとは何か
 2. キャッシュレス決済の種類
 3. キャッシュレス決済のシステム
- などについて解説を聞いた。

ネット社会が急速に発展している中国や韓国そして欧米先進国に比較して日本の普及率は低い。これは円という通貨の信頼性が強いからだろう。下図は各国のキャッシュレス比率を示す。日本は約18%にとどまっている。まだまだ現金払いが主流だ。

カードで決済できるキャッシュレスの手段は、概略次の3つの種類に区分することができる。

クレジットカード…JCBとかVISAなどのカード会社が代金を立替え払いして、後日個人の銀行口座から引き落としするもの。

デビットカード…常陽銀行のDebitカードなど、即時払いで銀行引き落としする。ATMで現金を引き出さずに代金支払いする感覚で利用する。

プリペード・カード…利用金額を事前にチャージする。利用できる店舗や機関が広いSuicaやバスカードなどキャッシュレス・カードなどがある。

カードが利用できる店舗やサービス機関が増加している。現金、小銭を財布に入れて持ち歩かずに買い物ができサービスが利用できる。このようなキャッシュレスの決済にはセキュリティや不正利用の防止の上でまだまだ問題がある。守るべきことは、この決済に利用する銀行口座には月々に利用する最低限度の預金をしておき、資産運用の口座とは必ず別にあることだ。

パソコンがしっかり使えれば、銀行の口座残高の確認や口座間の振替をパソコンによるインターネット・バンキングや自己管理がきちんとできる。いちいち銀行に出向かなくても残高確認もできるようになる。ATMによる現金の出し入れも必要最小限で済ませることができる。

コンビニを舞台にスマホ決済も乱戦模様で、まだまだ不安要素は多いが、インターネット・ショッピングと共にキャッシュレス社会が進むであろう。パソコンやスマホの進化がキャッシュレスの社会のベースになっていく。



Cnet 技術交流会(4/22)で
衣嶋新一 講師



各国のキャッシュレス比率(2015年)
経済産業省 H30年4月発行「キャッシュレス・ビジョン」